

令和8年4月28日
道路局環境安全・防災課

「道路附属物(標識、照明等)の点検支援技術」を公募します ～点検支援技術性能カタログの充実を図り、新技術の活用を促進～

道路構造物の点検の効率化・高度化を推進するため、点検に活用可能な技術を取りまとめた「点検支援技術性能カタログ」を策定しています。

今般、本カタログの充実の一環として、道路附属物(標識、照明等)の点検に活用可能な支援技術についても掲載するため、下記のとおり公募*します。

※道路法第2条第2項に規定する道路の附属物のうち、道路標識、道路照明施設、道路情報装置及び道路情報収集装置が公募対象

1. 公募期間

令和8年4月28日(火)～令和8年6月30日(火)

2. 公募要領、応募資料作成要領及び応募様式等

下記ホームページより、ご確認ください。

<https://www.rirs.or.jp/gijutsu/>

3. 技術公募や技術検証の手続の窓口

一般財団法人 日本みち研究所 道路附属物点検支援技術公募担当

TEL:03-5621-3111 E-mail:rirs-koubo@rirs.or.jp

※「一般財団法人 日本みち研究所」は道路技術懇談会を経て導入促進機関として選定されている機関です。

4. 参考資料

別添1:点検支援技術性能カタログの概要

別添2:道路附属物(標識、照明等)の点検支援技術の公募に係るリクワイヤメント

<問合せ先>

道路局 環境安全・防災課 道路交通安全対策室 北村(内線 38104) 溝田(内線 38129)

代表(03)5253-8111 直通(03)5253-8907

- 点検支援技術性能カタログは、国が定めた標準項目に対する性能値を開発者に求め、開発者から提出されたものをカタログ形式でとりまとめたもので、受発注者が参照することにより、点検への新技術活用を促進。
- これまで、橋梁、トンネル、土工、舗装及び道路巡視の分野について策定してきましたが、今後は、**道路附属物(標識、照明等)の点検を**対象とした支援技術についても、**点検支援技術性能カタログを策定予定**。

＜主な掲載技術＞

【橋梁・トンネル】 (H31. 2 ～) 【土工】 (R5. 11 ～)

画像計測

- ・橋梁 : 91技術
- ・トンネル : 40技術
- ・土工 : 10技術



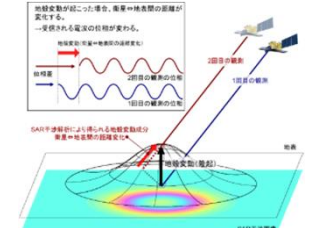
ドローンによる損傷把握



レーザースキャンによる変状把握



MMS※1を活用した
斜面・のり面点検



衛星SAR等を活用した
道路土工点検及び防災点検※2

非破壊検査

- ・橋梁 : 48技術
- ・トンネル : 25技術
- ・土工 : 2技術



AEセンサを利用した
PCグラウト充填把握



レーダーを利用した
トンネル覆工の変状把握

計測・モニタリング

- ・橋梁 : 76技術
- ・トンネル : 22技術
- ・土工 : 1技術



光ファイバーセンサーによる
橋梁モニタリング



トンネル内附属物の
異常監視センサー

データ収集・通信

- ・5技術

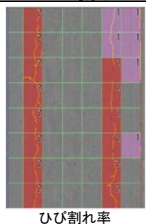
【舗装】 (R4. 9 ～)

ひび割れ率・わだち掘れ量・IRI

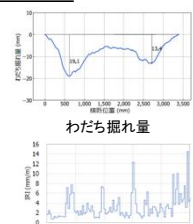
- ・55技術



AIによる自動判定



ひび割れ率



わだち掘れ量

IRI



スマートフォンで取得した画像
と加速度による路面性状測定

【道路巡視】 (R5. 3 ～)

ポットホール・区画線の摩耗・建築限界の超過・標識隠れ

- ・32技術



スマートフォンで取得した画像
によるポットホール検知



ドライブレコーダーで取得した
画像による区画線の摩耗判定

※1 MMS(モバイルマッピングシステム)

※2 国土地理院ウェブサイトより出典

- 道路附属物(標識、照明等)は施設数が膨大であり、交通規制を伴う高所作業車による点検、点検の記録、路面掘削による損傷状況の確認など、点検の作業負担が大きく、効率化・高度化による負担軽減が必要。
- 現地点検技術、点検・記録技術及び非破壊検査技術を公募し、道路附属物(標識、照明等)の点検に関する支援技術をとりまとめた点検支援技術性能カタログを策定予定。

現地点検技術

従来点検

高所作業車の使用や交通規制が必要



支援技術活用による点検(イメージ)※

ロボットの活用した現地点検
(高所作業車の使用、交通規制を削減)



リクワイヤメント

道路附属物(標識、照明等)の支柱や取り付け部等の損傷の有無の確認及び損傷の状態を把握する際に、交通規制や高所作業車の使用を削減できること

点検・記録技術

従来点検

点検記録作業に手間がかかる
(現地で紙調書作成、オフィスで点検DB登録)



支援技術活用による点検(イメージ)※

映像から点検記録を自動作成
(点検記録作業量を削減)



リクワイヤメント

人手や時間を削減して、効率的に点検記録がとりまとめできること

非破壊検査技術

従来点検

損傷調査のための掘削に手間がかかる



支援技術活用による点検(イメージ)※

超音波により損傷を非破壊で検査
(路面掘削が不要)



リクワイヤメント

路面境界部の損傷の有無の確認及び損傷の状態を把握する際に、掘削作業量を削減できること

※NETISに登録されている技術を参考にイメージとして掲載したものであり、特定の技術を推奨、選定するものではありません。